

## ヨハネの福音書 第12章 24節

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」

柑橘類の木立に蕾が付き、初夏にむけて花が開き始めた。やがて、その花が散り、そこから実らしきものが育ってきている。散るやさきから実が見え始める。蕾から花へ、花から実へとバトンタッチされ実りの時期へとむかう。それぞれの成長段階を愛する者に季節の流れ、時の経過とともに楽しませてくれる。

散った花は地上で朽ちている。枝に実らせた新しいいのちのしるしを残して。落下した花びらはそれでお終いではない。木立の根元で栄養分になってゆく。それが木立に実っている多くの果実の成長の後押しにもなっているような気がする。

一粒の麦が地に落ちると、そして、もし死ねばとまでいう。この落ちて死ぬのは、麦の穂から落ちた一粒の麦になぞらえ、死なれるお方の出来事を語っている。愛してやまない世に捨てられ、十字架に架けられ、息を引き取られる主イエス・キリストご自身が語る。ひとりのお方が十字架に架けられ、地に落ちるように埋葬され、三日目の朝によみがえられました。世の罪人を救うため、実りあるいのちのために。

2024年4月25日